

【留学体験記】楊 依依

所属 大阪大学医学大学院公衆衛生教室

派遣期間 2年

派遣先での所属 延世大学・公衆衛生大学院・予防医学系

1. キャンパスアジアプログラムに参加した動機

病気の原因を解明し、国の境界を越えてほとんどの人口に一般化される外的妥当性をもつエビデンスに基づく健康促進戦略を提案するというのが、公衆衛生学の博士研究者としての私たちの使命だと常に思っています。このように、国際協力は自分のキャリアを築く上で常に関心事です。キャンパスアジアプログラムを通じて韓国で勉強することは、自分の国際協力の能力を高め、日本と韓国の間での病因の比較研究を生み出す機会だと思いつつ、積極的に参加したいです。



2. 派遣先での学習

まず、総合コース卒業要件として、32単位の修士および博士課程を修了する予定です。したがって、疫学など週6つのコースに参加しています。各クラスの論文読み会発表、課題などを完成させることで、知識を積み上げたり、発表するスキルを向上させたり、Health Information National Trends Survey (HINTS) データセットを使用した研究に取り組みたりしています。第二に、韓国国民健康診断研究 (KNHNES) について学び始めました。第三に、積極的なコミュニケーションを通して、クラスメートや教授と良好な関係を



保つようにしています。最後に、毎週土曜日に韓国語のクラスを受講し、韓国語のスキルを向上させています。今は、韓国語の基本的な学术用語が理解できます。



3. 派遣先での生活において、よかったことや大変だったこと

今まで延世大で素晴らしい経験をしました。ここの研究室の学生みんなはとても親切で、彼らができる範囲内で何でも助けてくれます。私は何人かの先輩やクラスメート達からコーヒー、昼食、夕食をご馳走になりました。いつも韓国語の翻訳を手伝ってもらい、研究室の情報を伝えてもらいます。本当に大変お世話になっています。また、延世キャンパスアジア事務所は、週 3 時間の韓国語クラスを用意してくれました。おかげで韓国語を上手に習得できるようになり、韓国生活に早めに馴染める様に頑張っています。

ただし、ここで克服しなければならない困難もあります。私にとって最大の困難は言葉の壁です。ほとんどの講義と学生同士のコミュニケーションは韓国語で行われ、教授は学術的なコミュニケーションも韓国語であることを好みます。講義内容や会議などを理解するのに苦労しており、他の学生とのグループワークで言葉の誤解で争いもありました。しかし、余暇には積極的に韓国語を学んでおり、クラスメートに助けを求め、解決するまで問題に取り組んでいるため、状況は改善しています。



4. その他参加を検討している学生に伝えたいことなど

以下のような理由で延世大学を勧めたいと思います。

- 1、より専門的な研究者になれるチャンスがあります。ここには大阪大学よりさらに多くのコースと単位修得の要件がありますが、そのことは公衆衛生の知識を強化するための利点でもあります。また、毎週行われるラボミーティングは、私たちのモチベーションを上げるきっかけになっています。
- 2、プロジェクトに参加し、新しい人口ベースのデータを研究に利用する機会が得られます。
- 3、異文化生活を体験し、国際協力に参加できます。これにより、国際的な視野と国際協力能力が向上していきます。

また、延世大学にて良い勉強ができるようにするためのキーワードもいくつか述べたいです。ここでは主に、全ての教育を韓国語で行うため、出発前に韓国語の基本レベルを習得していると非常に便利です。TOPIK レベル3を合格しておくことをお勧めします。第二に、学問の独立。この教授と学生みんなはプロジェクトで忙しくて、時にはわたしの質問に答えられないこともあります。したがって、問題を解決し、自分自身で学問的に自立することが重要です。最後に、前向きで粘り強い姿勢も重要だと思います。

